

第8回 起業創出検討会議（最終回）

「暮らし起業を考える～ワークショップからまちを変える～」のようす

開催日時：平成28年2月23日（火）19時～21時

開催場所：郡中まち元気サロン 来良夢（こらむ）

この会の目的

伊予市中心市街地等での起業と雇用の創出を図り、地域経済の発展と暮らしやすいまちづくりを進め中心市街地の活性化を図ります。

全体のスケジュールについて

平成26年度中に2回 平成27年度中に6回 計8回開催

平成28年度には最初の開業者の誕生を目指します。

ワークショップのテーマについて

起業の業種について考える

起業家への支援のありかたについて考えます。

ワークショップのグループ分けについて 3グループでワークショップをおこないます。

次 第

1. 開会のあいさつ

2. 郡中まち元気推進協議会レポート

「あなたも郡中のまちで 起業 しませんか？」について (別添)

アドバイザー (株) バツフォー 稲田 里香 氏

3. “暮らし起業を考える”

ワークショップに参加しての意見・感想 委 員 各 位

アドバイザー 山口 誠 氏

” 小原 明美 氏

” 稲田 里香 氏

オブザーバー 市野 孝敏 氏

” 川原 隆司 氏

4. 「起業創出検討会議」全体のまとめ

アドバイザー 愛媛大学教授 前田 眞 氏

5. 閉会のあいさつ

ワークショップのグループ (敬称略)

総括アドバイザー：前田 眞

グループ A (全12名)

アドバイザー：山口 誠 オブザーバー：市野 孝敏
委員：一色 克仁、菊澤 康、中村 禎司、紺田 百合子、水口 純子、篠崎 博志、
佐々木 ミツ子伊予銀行郡中支店、横山 正紀 谷本 照美 (事務局)

グループ B (全12名)

アドバイザー：小原 明美 オブザーバー：川原 隆司
委員：片岡 直人、若松 一心、高畑 茂利、中野 久、新居田 真美、
谷岡 扶美、平岡 裕美、武智 宗徳、愛媛信用金庫郡中支店、森 和志

グループ C (全12名)

アドバイザー：稲田 里香
委員：武智 忠広、徳本 研三、相原 克俊、小島 将敬、一色 喜代子、
日野 鈴香、松本 宏、本田 寿、福岡 潤、竹田 惣一、愛媛銀行郡中支店

「起業創出検討会議」全体のまとめ

アドバイザー 愛媛大学教授 前田 眞 氏

今回で最終となるが、これからもいろんな形で活動が続いていくきっかけになれば良いかなと思っていた。皆さんの感想の端々にその言葉がでてきているので、すばらしいなと思いました。

目標、目的としては、雇用・移住を切り口にしながら郡中が元気に盛り上がり行けば良い。そのために民間のやる事の意義、民間でやれる事を大切にしていって応援していく。公的な支援と共働しながらやっていくスタイルがここで生まれて行けば良い。これからどうやって生み出していくのか、生み出していくためには、自分の町・店を見直すという話があったが、足元を見直すことによって、自分たちの本気度が生まれて来る。自分たちがそれぞれの立場で応援する。あるいは、自分たちが関わって行くという本気度が問われてくる。そこがこれからの基盤になって行かないといけない。

決め手を持つという話があったが、郡中の決め手は何か、出汁とかいろいろでてきたが、自分はこの町で暮らしたい、この人と暮らしたい。とか、ここに居る人の魅力が、一番の決め手かなと言う気がした。話をしている、皆の思いが彷彿としてくるし、もしこの場によその人がいたら、この町に住みたいとかこの人と住みたいとかの気持ちにならせてくれる気がする。

そういうものを、いかに周りに伝えられるかが大事なので、これから考えていく。お互いに啓発し合う。誰かが疲れた時は他の人がしていくとか、網目状の人の応援関係が生まれて来るのが大事。

郡中への応援の仕方は3つある。①体力で②お金で③知恵で応援する。自分の得意分野で応援したら良い。同じ立場で応援できる関係がここから生まれていくことで、モチベーションを維持できたり、これからの活動が拡大していく元になる。と思った。

自分達が応援する分野で足りない部分が必要出てくるので、その時にできていない部分をよそに求めていくのが大事になってくる。よそ者を認めていく力が無ければ動けない。くたびれてしまう。認めて行くのは勇気の要ることだが、自分たちのネットワークでない人達をどう応援していくか、うまく活用して働いてもらう、とかの力を地域が持たないといけない。その人達の力を感じる感性を養うことが大事になる。移住とか雇用とかのアンテナが自然と張れてくる。それは、「物事を素直に見る、受け入れる」事かなと思う。その力を養っていく事が大事だと思った。

「起業助成制度」を始めた。その制度のお金を目的に来る人が出始めている。そんな人と、本当にこの町の事を一緒にやっけて行こう、と思える人の見分けができなくなってくる。多分、見極めはできないので、その人達に変わってもらおうとか、その辺のところもこれから、見て行く力、感じる力を養っていかないといけない。

もう一つは、人の動きを誘発する起業。夜、人が歩ける町にしたい。たとえば、カラオケとか、映画館、例えば来良夢でやっている映画祭みたいな自分達で自主的にやる事は、暮らし起業の一つであるので、どんどん応援していくのが良いかなと思うし、そんな機能が町中に発生していく事が大事。そこを目指して人が来る。昼やっていたのを夜もやるようにしていくとか、ができて行けば人の流れが変わる。それが新しいビジネスを生み出すかもしれない。華々しいビジネスでなく、地に足の着いた小さなビジネス。そういうのが郡中の町にたくさん起こる事が「暮らし起業」の一番の特徴なのかなと思う。

自分がやりたいと思う事、あるいは、こうなったら良いと思う事を形にしていく事ができれば良い。ある意味ではボランティアかもしれないし、地域課題解決の動きかもしれない。あるいはビジネスかもしれない。繋がっていくコミュニティビジネスかもしれない。そういうものがどんどん起きてゆく。それをうまく応援する仕組みが郡中の創業支援の中で生まれて来ると良いかな。それはお金だけの話ではない。場所の話もあると思う。場所も一人が1つの場所を占領するのでは無く、いろんな人がシェアして使っていく動きがあると、週に1回の事業で良い。とか、そういうものからスタートして行く様な事が出来てくれば良いかな。そういうのを応援する計画が実はあまりない。ちゃんとしたビジネスでないと応援できない、融資ができないとか。だけど、そういうものをサポートする。

今、愛媛大学は、ベンチャーを応援する基金を伊予銀行と協力して造った。郡中の暮らし起業を応援する基金みたいなものを、銀行に協力いただきながら、わずかなお金で良いので、20万・30万の小口を応援する仕組みを、今は、ボランティアという支援の仕組みが有るが、資金を、助成で無く貸す仕組みができるか？郡中らしい暮らし起業を応援するためのサポートが生まれてくれば良いかもしれない。なかなか現実には、小口で手間掛けてみたい話は難しいかも知れないが、そういう事も創業支援の中でやっけていけるように

なってくると、もっと加速してくるかという気もする。

自分達にとって必要な企業のイメージをそこで見つめ直していく事だと思う。商売をしている人のやり方とは違う商売のあり方がそこで見えて来るかも知れない。

三津浜で週に3日しか開けていないパン屋さんがあって、行列ができるくらいすごい人気で、商店街の人がお店の人に「殿様商売をするな、もっとお客様を大事にする商売をせい」と怒ったそうで、パン屋さんは自分の生活も大切にしながら、尚且つ本当自分の店を支えてくれる人達に対して商売をしたい大多数の人へ向けての商売ではない。とのポリシーがあって・・・そういう商売のあり方もあるかも知れない。そんな多様なあり方みたいなものが郡中の暮らし起業の中で生まれて来て、それをうまく応援していける仕組み。皆さんで言うと、気持ちの応援、お金の応援、場所の応援も要るかも知れない。自分たちができる範囲で関わって行けることができれば良い。

平成27年度郡中まち元気推進協議会レポート「あなたも郡中のまちで起業しませんか？」が出ました。これはすごくまとまっていると思う。こういうものを共有していく仕組み、知らせる仕組み、アピールする仕組みを続けて行かないといけなくて、その時に、お金だけでなく気持ちの応援があることを伝えることができると、より良いかな。ここの皆が目的に向かって、自分のできる事をつなぎ合わせていく事ができるようになって行くと思った。

郡中は、これから何年かけて元気にしていくかも頭の中に入れながら、すぐには効果は出てこないだろう。五年たってもあまり効果が出ないかも知れないが、やり続ける、発信し続けることによって、ある時、劇的に変わる時がでてくると思うので、モチベーションを維持しながら、皆が網目状の人間関係の中でやって行けるようになれば良い。

この会は終るが、今日からがスタートで、次の展開。今やっていることを、地道にやり続けることがすごく大事。やり続けるパワーが求められる。お互いが励まし合ってやって行ける様に、ここのメンバーが周りの人に伝えて、その人達を巻き込んでやっていく事が大事だと思った。灯を消さないように進めていただきたいと思います。

アドバイザー 前田 眞 氏



オブザーバー 山口 誠氏



オブザーバー 小原明美氏



オブザーバー 稲田里香氏



会議の様子

